京都の強さ
経営ビジョンを聞く①

―東証1部に指定されました。

「当社への注目は以前以上に高まっている。会社の成長に合わせて上場市場もステップアップを目指している。次の30年を見据え、長期ビジョン『ビジョン100』の完成へとつなぐ」

―ビジョン戦略はコアコンピタンスの強化や徹底です。

「電力や交通、工業などのセグメントで制御機器などを強化する。今期待しているのは、メガソーラー向けストリング監視ユニットだ。業界に先駆けた1000ボルト対応製品で反響は大きい。今後はさらに監視業務に設置者の関心は高まるだろう」

―2015年以降も戦略製品はめじろ押しです。

「まずは半導体スイッチで、無接点で開閉でき電力や産業機器などあらゆる操作機器に使える。軽量化が図れるアルミ端子台は専門商社との連携で販路拡大を進めている。また白色LEDは色覚異常の方でも認知できるとしてCUDマークを取得、採用拡大に役立っている。これからが楽しみだ」

不二電機工業
小西 正 社長

制御機器中心に事業強化

―生産体制の見直しが進んでおり、海外展開も積極化していますね。

「草津工場を表示灯、新旭工場は接続機器など専門工場化、効率生産体制を整えた。海外では鉄道関連の展示会に積極出展中で、カリフォルニア地下鉄への採用など着実に伸びている」

―三重県四日市市に総額120億円を投じる新工場建設を決めました。

「過去には財務体質が悪く、やりたいこともできない時期が続いた。現在も決して万全ではないが、負の遺産はなくなった。メーカーとして、将来に向かった設備投資をやらないと成長、発展はないと考え、大型投資に踏み切った」

―新工場はマザー工場と位置づけています。

「当社は日本発の材料屋を自負している。今後も日本で開発したものを世界へ向けて発信していく。その拠点が新工場。3期に分けて投資し、まず第1段階では既存商品の生産を強化する。最新工場は営業支援の拠点としても期待できる」

第一工業製薬
坂本 隆司 会長

日本発の技術世界へ発信

―2015年度から次期中期計画がスタートします。その方針は。

「中身はこれから詰める。一方で四日市の新工場の投資を決める際に、すでに25年度までの中長期的なフィージビリティースタディは行っている。次期中計ではそれがベースとなる。新工場のほかにも、子会社の合成潤滑油の設備や、東南アジアなど海外の生産拠点の整備など課題はある。これらの優先順位をどうつけていくかだ」

―海外の取り組みは。

「海外販売比率はざっと15％。これを30％に引き上げたいが、現在の生産体制では限界がある。そのため昨年にシンガポールに駐在員事務所を開設し調査を始めている」

シーテックジャパン2014 見てある記

京都のエレクトロニクス企業
先端分野で力示す

国内最大のIT・エレクトロニクス産業の総合展示会「シーテックジャパン2014」が、千葉市美浜区の幕張メッセで開かれた。電装化が進む自動車関連や身に着けて使うウエアラブル端末、独自技術を結集したロボットのデモ展示など、先端技術の競演で会場を大いに盛り上げた。京都のエレクトロニクス系企業もこぞって出展。自社の三つ星技術や製品を存分にアピールし、来場者を魅了した。

京セラは自動運転や安全運転支援システムなど先端車載部品の市場開拓に力を入れており、今回はデバイス群をコックピットに搭載したデモ機を披露した。

電圧を印加すると伸び縮みする圧電素子の特性を利用し、タッチパネルの振動に触覚を持たせた車載機器や、明るい場所でも高い視認性が確保できる高輝度ヘッドアップディスプレーなどを用意。自動運転などで需要拡大が期待できるセンサーカメラや後方確認用のカメラモジュールなども紹介した。

ロームは車載用LSIやトランジスタ、ダイオードなどのディスクリート（個別半導体）など、新規開発品では、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）、アイドリングストップ車などの回生蓄電システムに利用される電気二重層キャパシター（EDLC）向けのICを展示した。

4―6個のEDLCを搭載した際に、各セルの充放電を最適にコントロールするのに使う「セルバランサー」としての役割を担う。従来は複数のディスクリートで構成していたが、同ICでは必要機能を世界で初めて1チップ化。部品スペースをディスクリート構成に比べ38％削減した。

オムロンはレーザーレーダーを応用し、複数のセンサーを組み合わせた「マルチオプティカルセンサー」を披露した。同製品は①雨粒にレーダーを発射して反射光で雨量を計測し、ワイパーの動きを自動でコントロールする「レインセンサー」②時速30キロメートルで10メートルの範囲を測距できる「追突防止センサー」③正面と上方向にセンサーを設置し、周囲の明るさに合わせてヘッドライトの光量を調整する「オートライトセンサー」で構成。フロントガラスとルームミラーの間に設置して使う。2016年夏に飯田工場（長野県飯田市）で量産する計画だ。

ニチコンはEV用に車載用充電器が一体となったDC／DC（直流／直流）コンバーターやインバーター、モーター制御機器に搭載するフィルム／アルミ電解コンデンサーなどを紹介。DC／DCコンは自動車用のネットワーク規格「CAN」に対応し、動作や各種情報を送信できる。

（本文、次ページに続く）

▲ロームの展示ブースでは車載用部品の多様な供給実績をアピールするため、自動車模型に製品群を並べた

京都の ほしみっつ ☆☆☆。 エレクトロニクス&経営